

2023 ズバリ! 的中



世界史

関西学院大学

ノルマン人に関する記述の正誤判定が的中

入試問題

2月7日実施 学部個別日程
〔1〕 問い②

〔I〕 次の文中の□に最も適当な語を語群から選び、また下線部に関する問いに答え、最も適当な記号1つをマークしなさい。

ゲルマン人の大移動がきっかけとなって西ローマ帝国が滅亡すると、ゲルマン人の諸部族はヨーロッパの各地に次々と王国を建設した。ゲルマン人の王国の中で、クローヴィスのフランク王国は次第に勢力を拡大し、①カール大帝の治世には、フランク王国は西ヨーロッパを統一するまでになった。カール大帝の宮廷には□□□□をはじめとした多くの学者が招かれ、カロリング=ルネサンスが開いた。カール大帝の死後、フランク王国は3つに分裂し、この頃から西ヨーロッパは様々な外敵の脅威にさらされるようになる。北方からはヴァイキングと呼ばれ、②ノルマン人、東方からはスラヴ人など、南方からはイスラム勢力が西ヨーロッパを脅かした。

荘園を基盤とした封建社会は11世紀から13世紀にかけて最盛期を迎えるが、同時に都市が発展し、封建領主の支配から自由になった。③自治都市が各地で誕生した。学問の中心地もそれまでの農村地域の修道院から、都市の大学へと移っていった。法学で名高いイタリアの□□□□大学や神学で有名なパリ大学などがその代表である。経済的に豊かになった都市では、新たに④ゴシック様式の大聖堂が建てられた。

貨幣経済による商業活動が活発になるにしたがって、次第に封建秩序の担い手であった封建領主の力が衰え、代わりに国王を中心とした中央集権的な国家が台頭し始めた。それまで西ヨーロッパにおいて強い力を持っていたローマ教皇の権威も、中世末期には衰退し始めた。教皇ボニファティウス8世とフランス王フィリップ4世との対立に端を発した「教皇のパピロン捕囚」は、イタリアとフランスに教皇が並び立つ教会大分裂という事態を招くことになる。13世紀から14世紀にかけて王権を伸長したのはイギリスとフランスで、両国は王位継承権をめぐる⑤百年戦争を起こした。

②ノルマン人に関する記述として、誤りを含むものはどれか。

- a. ロロを首領とするヴァイキングの一派は、ノルマンディー公国を建国した。
- b. ノルマン人のルジューロ2世がシチリア王国を建国した。
- c. リューリクに率いられたノルマン人がノヴゴロド国を建てたとされる。
- d. ノルマンディー公ウィリアムはイングランドにプランタジネット朝を開いた。

河合塾

直前講習
関学大世界史突破テスト
〔1〕 問い⑤

〔I〕 次の文中の□に最も適当な語を語群から選び、また下線部に関する問いに答え、最も適当な記号1つをマークしなさい。

ガリアとは、古代ローマ人が「ガリの居住地」に与えた名称で、ガリとは、①ギリシア人がケルタイと呼んだケルト人のことである。地理的にはライン川、アルプス山脈、地中海、ピレネー山脈、大西洋に囲まれた地域を指す。前1世紀前半、ガリア諸部族間の反目がローマの介入を招き、②カエサルがガリア遠征によって征服された。

2世紀末からガリアにおける「ローマの平和」が乱される。その要因のひとつが北からのゲルマン人の侵入である。253年のアレマン人の侵入はガリア中枢部にまで達した。文化的には4世紀にラテン文学が栄え、③キリスト教も隅々まで浸透する。しかし5世紀にはゲルマン人の諸部族が相次いで侵入し、イベリア半島を支配していた□□□□王国への475年のオーヴェルニュ割譲によりローマのガリア支配は事実上終焉する。やがてゲルマン諸族の中から④フランク人が台頭し、486年ソアソンの戦いでローマを完全に駆逐し、キリスト教に改宗したのち、532年に全ガリアを支配するに至る。

その後、ガリアに⑤ノルマン人が侵入し、911年には西北部にノルマンディー公国が成立した。987年になるとパリ伯によってカペー朝が開かれるが、当初は王権が弱かった。やがてカペー朝は、フィリップ2世がイングランド王ジョンから西部の領土を奪い、□□□□の時にはカタリ派を討伐する十字軍を成功させてガリア南部にまで王権を伸張させた。1328年にカペー朝が断絶すると、これを機に⑥百年戦争が起こり、ガリアは混乱に陥ったが、イングランド勢力はほぼ駆逐され、ガリアは、安定期を迎えることになる。

⑤ノルマン人に関する記述として、誤りを含むものはどれか。

- a. ノルマン人とは、「北の人」を意味する。
- b. ノルマンディー公ウィリアムは、ノルマン朝を建てた。
- c. ヴォルガ川中流域にキエフ公国を建国した。
- d. ルジューロ2世は、両シチリア王国を建国した。